

2016年度

# 教員採用試験

# ココがよく出た!



関西国際大学  
教育学部准教授  
吉田武大 先生

2016年度の小学校全科も、概ね例年通りの出題傾向と言っていいでしょう。ここでは自治体の出題傾向を踏まえ、領域毎に総括します。

1

## 国語・社会は現代文・漢字と江戸時代に注目。

国語では、例年通り現代文読解、漢字、文法が頻出。このうち、現代文読解は41自治体で、漢字は23自治体で、それぞれ5年連続の出題となっている。学習指導要領では「内容」や「目標」に関する問題が目立った。社会では、江戸時代、日本の暮らし、日本の自然が頻出で、この5年間で4回以上出題した自治体数はそれぞれ20、8、7となっている。今年度は地図、明治時代と地図、日本国憲法からの出題も散見された。学習指導要領では「目標」に関する問題が例年同様よく見られた。

2

## 実験器具の取り扱いと平面図形はマスト。

算数では、平面図形、式の計算、方程式が頻出であり、5年連続で出題している自治体数はそれぞれ23、23、20にのぼった。その他には、確率や空間図形、一次関数からの出題も目立つ。学習指導要領は具体的指導法や「目標」に関する問題が比較的多く出題されたようだ。理科では、実験器具の取り扱い、太陽系と宇宙、生物の種類の出題頻度が高く、それに電磁気、物質の状態（三態）に関する問題が続いている。学習指導要領では、やはり「目標」を出題する自治体が多かった。

3

## 音・図・家・体は出題箇所が固まっている。

音楽では、楽譜の読み取りや音楽記号等の音楽の基礎、歌唱共通教材に関する問題がそれぞれ27、12自治体で5年連続の出題という頻出事項だ。図画工作では、色彩や用具等の図画工作の基礎に関する問題がよく出た。学習指導要領については「目標」に注意。家庭では、食品・調理法、被服に関する問題がそれぞれ28、26の自治体で出題された。体育では、スポーツの種類・ルールに関する問題が比較的多く出題されたほか、学習指導要領の「内容」や同解説に関する問題が目立つ。